



第3回
図書ボランティアフェスタ
報告書

平成21年10月2日

あおば学校支援ネットワーク
図書ボランティアフェスタ実行委員会

目次

1) 読み聞かせ講座 「読み聞かせのコツ1・2・3」.....	2
2) 展示の工夫講座 「ブックスタンド・図書カレンダーを作ろう！」.....	4
3) ブックトーク講座 「実践ブックトーク」.....	9
4) YA(ヤングアダルト)講座 「ヤングアダルト児童文学から世界を見る～大人も子どもも新しい発見～」.....	11
5) 修理講座 「すぐに使える修理テク」.....	15
6) 読書ゲーム講座 「広げよう 読書の世界を」.....	20
7) 情報と交流のコーナー.....	22

ごあいさつ

こんにちは。あおば学校支援ネットワーク(ASN)です。ASNは、学校支援ボランティアのコーディネートや、各種講座・イベントを開催して今年で5年目を迎えました。

図書ボランティアの活動には初年度より焦点を当て、フェスタという形式になってからは今回で3回目になります。年を経るごとに、フェスタの実行委員として参加される図書ボランティアの方が増え、自らが持っている技術を教えあうタイプの講座が増え、お互いにつながり学びあう様子が多く見られるようになってきました。あわせて専門家の方から学ぶことにも積極的に、毎回意欲のある方々が参加されています。

先生でもなく親でもない、図書ボランティアや読み聞かせボランティアという地域の人である私たちは、子どもたちに「本を読ませる」工夫ではなく、「本を読みたくなる」工夫をこらした活動ができる存在でありたいと思っています。今回のフェスタも地域や学校の様々な場面で活躍する人たちや読書を楽しむ子どもたちへの応援となりますように。

最後になりましたが、講師として、スタッフとしてフェスタを支えてくださった皆様方にお礼申し上げます。ありがとうございました。



1) 読み聞かせ講座「読み聞かせのコツ1・2・3」

講師：吉永厚子さん（「めだか文庫」代表 劇団「ポコあポコ」）
武本節子さん（「ポレポレ文庫」代表）
正地伸子さん（「お話しパッチワーク」「空とぶじゅうたん」）
筒井厚子さん（「虹の部屋」「空とぶじゅうたん」）

区内を中心に様々な場面で活躍されている方々を講師に迎え、吉永さんより「読み聞かせのコツ・心・視点」についてお話していただきました。講師の方々の個性あふれる読み聞かせの実演を聞いた後、受講生は少人数のグループに分かれて、各自持参した絵本の読み聞かせの実習にチャレンジ！ 受講生一人ひとりにグループ講師からのアドバイスがありました。アドバイスに真剣に耳を傾け、うなづく受講生の姿がとても印象的でした。

□ 講師が読み聞かせをした作品

「しゃべる詩 あそぶ詩 きこえる詩」「みえる詩 あそぶ詩 きこえる詩」はせみつこ編 飯野和好絵 から「そうだ村の村長さん」「へんてこ動物園」「ちょうちょう」「とっきっき」「終わり」

「メチャクサ」 ジョナサン アレン著 岩崎敏之訳

「ネコとクラリネットふき」岡田淳著

「きつねのおきゃくさま」あまんきみこ著 二俣英五郎イラスト



□ 市立図書館の司書による選本に役立つお勧めの本

「えほんのせかい こどものせかい」松岡享子著

「松居直のすすめる50の絵本 大人のための絵本入門」松居直著

「読み聞かせわくわくハンドブック 家庭から学校まで」代田知子著

「本の世界をひろげよう」読み聞かせボランティアハンドブック（希望する受講生に配布）

□ 読み聞かせのコツ・心・視点

○ 子どもと本を結ぶ活動

- ・ 第1の流れ 1960～1970年代 草の根的発生の家庭文庫活動
- ・ 第2の流れ 1990年代以降 行政の施策 ボランティア活動の促進
- ・ 2000年以降 子どもの読書活動の推進に関する法律制定
- ・ 出版業界から読者を増やす試み：読書アドバイザー養成講座
- ・ 1995年 トーハンの「朝の読書」運動により小中学校の7割に普及

○ 子どもとともに本を楽しもう！

- ・ 絵本は子育てにとっても大きな力を持ち、絵本の心は大人も育てる。自分探しの原点がある。

- ・ 「子どもの本にはこころの原型が書いてある・・・」(三木卓氏)まず、大人が絵本をじっくり味わおう。
- ・ 読書が好きな子に育てる1番の方法は、まず、親が読書を楽しんでいること。たくさんの本の中から子どもの心にぴたりと合う本選びを手助けできる大人たちが回りにいること。自由に読むことを妨げられなければ子どもは本が好き。親しみのある、生の声で読んでもらうのが好き。
- まず、本の表紙をじっくり見てもらうことから始めよう。タイトルや絵からおはなしを想像する。絵本の作者(文・絵を書いた人)の名前も忘れずに。
- 子どもの顔を見て声が届いているか?確かめよう。家庭での読み聞かせとは違い、部屋の一番後ろの子に聞こえる声で(腹式発声練習)。できるだけ、本を覚えるくらい読み込もう。そして、その作品の世界を大切に伝えよう。
- 複数の子どもの前で読み聞かせする時は、絵の力も大きいので後ろまで見えるものを選ぶ。拡大コピーや大型紙芝居にする時は、出版社・著作権者の許可を得るようにする。詳しくは日本書籍出版協会まで問い合わせる。(TEL 03-3268-1303)
- 読み手の自己満足で大げさなパフォーマンスに走らないで、聞き手がその作品の世界にじっくり浸れるように自然に話す。読む速さや間の取り方、ページをめくる速さも考える。
- 本の選び方
 - ・ 昔話:短い中に起承転結があって、子どもにこうあってほしいという社会通念を伝える。
 - ・ ロングセラー:長い間読み継がれ子どもの気持ちをしっかり捉える絵本。
 - ・ 詩・ことば遊び歌:言葉をポンと心の真中に放り込んで、イメージを楽しんで遊べる。
 - ・ ファンタジー:空想の世界の中で心を羽ばたかせて気分転換させてくれる。
 - ・ 写真絵本:自然の力、世界の創造物、見えないものを見せてくれる発見の楽しさを味わえる。
 - ・ 自然の認識を深める本:深い自然観察から得られた知識を文学性の高い物語にしている本。
 - ・ 笑い話・とんち話・落語:ユーモアは人生の潤滑油として身につけたい。
 - ・ ナンセンス絵本:絵と言葉のコラボレーション。奇想天外な世界に子どもは自由に行き来できる。
 - ・ 子どもと絵本について研究してこられた方々の著作や、新聞記事(子どもの本のコラムなど)を参考にしたり、図書館の司書に相談したりする。



2) 展示の工夫講座「ブックスタンド・図書カレンダーを作ろう！」

図書ボランティアとして活動している方々をはじめとして、私たち大人は、子どもたちに本をたくさん読んでほしい、読書の楽しさを知ってほしいと思っています。子どもたちにそのアピールをする手段として、この講座では各校の工夫の様子を紹介し、制作も取り入れました。制作物のブックスタンドは、書架から取り出した本を直接目に入れて興味がわくように、図書カレンダーは、折々の季節や月にちなんだ本や著者の紹介を通して興味がわくようにするものです。事例として区内小学校の図書館の様子がプロジェクターで映し出され、様々な展示の工夫を学びました。さらに図書ボランティアのお互いの指導による制作に取り組みながら、交流のひと時を持ちました。

また、冒頭に横浜市学校図書館協議会会長を務める織茂篤史青葉台中学校長による挨拶があり、図書ボランティアの方への感謝や小学校で活動された方々に対する中学校での活躍の期待、読書推進の様々な取り組みなどについてお話いただきました。

□ 「図書館は情報発信基地～区内小中学校の活動～」

講師：竹本 靖代（図書ボランティアフェスタ実行委員）

子どもたちは読みたい本を取り出したり必要な資料を探するとき、その場所へまっすぐ向かったり、端から順に探していったりするものですが、自力でその本がある場所へたどりつくためのツールとなる本の配置図と十進分類表は必要なもので、十進分類法に従って分類整理します。一方、自宅の本棚は個々の都合や興味・必要性に応じた並べ方です。学校図書館では不特定多数の人が検索できるように十進分類法によって整理し、さらに利用者の目的やニーズにあった資料を提供するような配慮を加えるとより効果的です。たとえば、教科書に出てくる作家の本を集中させた配架、季節や地域のトピックスに合わせたテーマの本の展示、先生の推薦図書コーナーなどの工夫が考えられます。

その展示方法のひとつとして、区内小中学校のご協力をいただいてガラスケース(ショーケース)の活用例を収めた写真を集めました。奥行きがあって本や立体的なものを展示できるばかりではなく、廊下に面して多くの人目に触れるので様々なアピールのツールとしても活用できます。所持していない学校もありますがディスプレイや情報発信の参考に、解説を交えながら見ていただきました。

□ 「ブックスタンド制作」

講師：大胡 佐和子、大迫 靖子（図書ボランティアフェスタ実行委員）

指導：鴨志田第一小学校 図書ボランティア「親がも子がも」の皆さん

針金ハンガーを曲げてブックスタンドに加工します。オプションとしてフェルトで作って先端にかぶせた季節感あふれるマスコットが好評でした。

ブックスタンド①

ブックスタンドレジメ②

□ 「図書カレンダー制作」

講師：前田 麻美さん（奈良小学校 図書ボランティア）

指導：奈良小学校 図書ボランティア「図書室お助け隊」の皆さん

カレンダーの期間に誕生日のある有名人の情報やその季節の行事、先生や図書ボランティアからお勧めする本の情報などを調べ、イラストとともに季節や月のカレンダーの枠に書き込みます。見本は手書きのほのぼのとしたよさがありますが、パソコンで作成するのもいいですね。

作品見本





参加者にインタビュー part I (展示の工夫講座会場にて)

- ☆ 各学校のガラスケース展示の紹介、ブックスタンド作り、図書カレンダーの三本立てだったが流れもスムーズでちゃんとまとまっていた良かった。
- ☆ 最初に他校の展示や装飾のスライドを見せていただいたのは、勉強になりました。
- ☆ ワークショップでの制作は、満足感があつた。各テーブルには、いろんな学校の図書ボランティアさんがいて、各学校の展示の方法、図書館の飾りつけなど、情報交換ができたのも良かった。
- ☆ 普段なかなかお会いできない他校のお母様たちと、読み聞かせをどのようにしているか、他に行っていることや工夫について、テーブルでお聞きすることができました。学ぶ事も多く、刺激も受け、貴重な時間が過ごせました。
- ☆ 初めて参加させていただきました。せっかくのイベントなので、例えば幼稚園でも読み聞かせをしている園の方達もきてもらえると、お子さんが小学校に進学しても図書ボラに関心を持っていただけたと思います。
- ☆ スタッフとして参加した「針がねハンガー…」は予想より苦戦する参加者がいて、グループごとにもう一回実演したほうが良かったと思った。フェルトの飾りは好評だった。
- ☆ 図書カレンダーは手書きでは描ける人が限られるが、長い休みの前だけでも配布すると楽しい。他の学校で出しているおたより等も見なかった。
- ☆ カレンダー作りの際、著作権の問題について参加者側からもアドバイスがあり、情報や意見交換の場にもなっていた。著作権については細心の注意が必要だと思う。
- ☆ 同じグループの人と情報交換したりぐちりあったりも楽しかった。

3) ブックトーク講座「実践ブックトーク」

講師： 笠原由紀子さん、清水ますみさん、山村園江さん（横浜市立図書館司書）

「ブックトークを一度やってみたいと思うけど、実際にどうやったらいいかわからない。」「はじめの一步を踏み出す勇気がほしい。」とされている方はいませんか。今年のブックトーク講座は、講義やデモンストレーションとともに、参加者によるブックトークの実技の発表と講師による講評を取り入れました。今回の講座のねらいは、受講者の皆さんが実際に経験することでブックトークを身近に感じ、手をのばすきっかけとなることです。

□ 「ブックトーク入門」 講義

◇ ブックトークとは

「この本おもしろいよ、読んでみない？」と子どもたちに多彩な本を紹介することで、本に対する親しみを増し、読書に広がりをもたせることがねらいです。ブックトークは本の紹介の技術よりも、その本が持つ力で聞いている人をひきつけます。それだけに、内容に力のある本を選ぶことが大切です。

◇ 本の選び方

本の選び方には 2 種類あります。まずテーマを決めてから本を選ぶ方法と自分が紹介したい本を 1 冊決めてからその本にあったテーマを設定してから関連する本を選ぶ方法があります。テーマの設定も、例えば「家」という一般的なカテゴリではなく、「どんな家に住みたい？」と子どもの興味・関心を引くような工夫が大切です。

◇ 全体の構成と本の紹介の仕方

1. 単調にならないように幅広いジャンルの本を選ぶ。(例) 物語や絵本の中にノンフィクションを入れるなど。
2. 本の特徴を生かす。(例) 挿絵がはっきりしたものは挿絵を見せる。
3. 目立ち過ぎない程度に関連する小物や実物を用意する。
4. 物語の基本状況(いつ、どこで、だれがなど)を伝えると話の内容に入りやすい。
5. 話の雰囲気伝えるために文章をそのまま読むこともある。
6. 一方的に話すのではなく、聞き手とのやり取り、例えば問いかけや参加で興味と集中をアップさせる。
7. ワークシートなどを活用し、構成やつながぎを考える。またブックトーク終了後の振り返りとしても有効。ただし、つながぎのことばやテクニックにあまりこだわり過ぎないほうがいいのではないか。
8. しおり、付箋などを利用すると、スムーズに行える。
9. 最後の本を全部読むと子どもは満足感を味わえる。

◇ 練習をしよう。

声に出して練習をしよう。言葉がこなれてきます。その際には人に聞いてもらい、アドバイスを受ける。紹介のポイントや構成を書き出したワークシートは有用だが、シナリオに頼り過ぎず子どもの反応を見ながら進める。

◇ 大事なこと

1. 紹介した本を子どもが手に取れるように工夫する。(例)リストを作り配布する。学校の図書室にあることを伝えたり展示したりする。
2. 相手があつてのブックトークなので、子どもとのふれ合いややり取りを楽しむことが大切です。「読書って楽しいな」と思ってもらふこと、「この本、読みたいな」と手にとってもらふためには、子どもの目線に立ち、年代にあったことばや内容を考えましょう。

□ 課題図書 テーマ「家」

「ふしぎな木の実の料理法」 岡田淳/作 理論社

「火よう日のごちそうはひきがえる」 エリクソン/作 評論社

「マンヒのいえ」 クォン・ユンドク/絵と文 セーラー出版

「デイリーのねがい」 フェイス・ジェイクス/作 こぐま社

「ちいさいおうち」 バージニア・リー・バート/文・絵 岩波書店

「おおきなきがほしい」 さとうさとる/ぶん むらかみつとむ/え 偕成社

「世界あちこちゆかいな家めぐり」 小松義夫/文・写真 西山晶/絵 福音館書店

「イグルーをつくる」 ウーリ・ステルツァー/写真と文 あすなろ書房

□ 実技発表と講評

◇ 4人の受講者による実演の後、講師より講評があつた。

1. 一人ひとりの人柄や個性が出て、十人十色のブックトークであつた。
2. まず、5Wを話の枠組みとして紹介すると聞き手は話の内容を把握しやすい。
3. 内容の要約の伝え方に工夫がみられた。読みながらはしよる方法や会話文や主人公の言葉を取り入れる方法なども使うとよい。
4. 「おおきなきがほしい」では最後まで読んでも、種明かしをせず上手に興味をひいていた。
5. 声が出ていて聞きやすい。
6. 関連する手遊びを入れる工夫があつた。
7. 導入に各人工夫がみられた。イグルーで日本のかまくらを例に出した点や「どんなお家に住んでいる?」という問いかけは、子どもにとって身近に感じられ、興味を持たせるものであつた。
8. 最後は「これはどんな風に作る? 今度読んでみてね。」などと声かけをする。



4) YA(ヤングアダルト)講座

「ヤングアダルト児童文学から世界を見る～大人も子どもも新しい発見～」

講師：竹内より子さん（日本児童文学者協会国際部副部長）

参考図書：草花と呼ばれた少女 シンシア・カドハタ作 白水社 2006

ニンジャ×ガリレオ×ピラニア グレッグ・ライティック・スミス作 ポプラ社 2007

砂漠の国からフォフォー 中川なをみ作 くもん出版 2005

参加者の方には、日系アメリカ人や青年海外協力隊の日本女性が登場する参考図書3冊の中から好きな本を読んで、感想を持ち寄っていただきました。YA 文学といっても、ファンタジーなどいろいろなテーマがありますが、今回は世界をテーマにたくさんの推薦本を紹介していただきながら、読書の世界を広げました。

□ 「日本にいても、君にもできるよ、世界を平和にする方法」

世界で活躍している日本人がいることを、子どもたちに知ってほしい。外国に興味の無い子どもたち、行ってみたい国が思い浮かばない子どもたちが、最近接する子どもたちに増えている。それは忙しさのあまり、色々なことに興味を持って学ぼうとしても、時間がなくて学べない子どもたちだと思います。

□ 「私たちはどんなふうに見られているのか？」

諸外国から見る日本人像や逆に日本人は外国をどのように見ているのかを改めて考えてみましょう。

□ 日本にいてだけで、平和に貢献するためには

1. 日本人像の世界への発信・どんな日本人を描いてほしい？・・・まずは海外の国に対してこちらがもつ印象を見直そう。(アニメやDVDの視聴を通して)

タイ： ウィスット・ポンニミット「タムくんとイーブン」から「車」(新潮社 2006年)

プラープダー・ユン 「インビジブル・ウェーブ(Invisible Wave)」(映画脚本)

「座右の日本」(TYPHOON BOOKS JAPAN 2008年)

台湾： ジミー・リャオ自身が出演した番組 地球をテーマにした絵本を作り上げていく工程

2. 世界の関心事を知ろう・・・どんな国の作品が書かれているか？(☆は課題図書)

① インドが「きていた」欧米(距離的・歴史的関係から)

ラドヤード・キップリング 「少年キム」ほか(晶文社 1997)

ピーター・ディキンソン 「悪魔の子どもたち」(大日本図書 1981)

アン・ホワイトヘッド・ナグダ 「いたずらニャーオ」(福音館 2006)

P.B.カー 「ランプの精」シリーズから「カトマンズのコブラキング」(集英社 2006)

② アフリカへの関心

ジェラルド・ダレル「積みすぎた箱船」(福音館文庫 2006)
ピーター・ディッキンソン「血族の物語」(ポプラ社 2003)、「青い鷹」(偕成社 1982)
エリザベス・レアード「路上のヒーローたち」(評論社 2009)

③ 中近東への問題意識

ヤスミン・クラウザー「サフラン・キッチン」(新潮社 2006)
ジャネット・ウィンター絵と文「バスラの図書館員—イラクで本当にあった話」(晶文社 2006)
ガリト・フィンク&メルヴェト・アクラム・シャーバーン作 リツァ・ブダリカ編
「友だちになれたら、きっと。—イスラエルとパレスチナの少女の文通—」(鈴木出版 2007)
エリザベス・レアード作 ソニア・ニムル協力「ぼくたちの砦」(評論社 2006)
ローレンス・アンソニー「戦火のバグダッド動物園を救え」(早川書房 2007)

④ 日本とインド

タゴール暎子「嫁してインドに生きる」(ちくま文庫 1984)
川端有子「少女小説から世界が見える ペリーヌはなぜ英語が話せたか」(河出書房新社 2006)

⑤ 日本とアフリカ

岩合日出子「アフリカ ポレポレ」(新潮文庫 平成二年)
河合雅雄(草山万兎 1979)「ゲラダヒヒの紋章」(河合雅雄著作集 11 小学館 1998)
☆中川なをみ「砂漠の国からフォフォー」(くもん出版 2005)

⑥ 日本と中近東

梨木香歩「村田エフェンディ滞土録」(角川書店 2006)

⑦ そのほかの国

大塚篤子「風にみた夢 —11歳、ヒマラヤへの旅—」(ネパール)(ポプラ社 2006)
中川なをみ「龍の腹」(中国)(くもん出版 2009)
三輪裕子「太古の森へ」(ニュージーランド)(小峰書店 2001)
那須田淳「ペーターという名のオオカミ」(ドイツ)(小峰書店 2003)
米原万里「嘘つきアーニャの真っ赤な真実」(チェコ)(角川書店 2004)
長倉洋海「ヘスースとフランシスコ エル・サルバドル内戦を生きぬいて」(エル・サルバドル)(福音館 2002)
よしおかふみ(7才・絵日記)「イラクリョウ日記」(エクスマレッジ 2004)
いぬいとみこ「リラと白樺の旅」(チェコ・ソ連)(理論社 1970)

岩波ジュニア新書

小松太郎「教育で平和をつくる 国際教育協力のしごと」(ボスニア・ヘルツェゴビナ 2006)
岸谷美穂「イラクの戦場で学んだこと」(イラク 2005)
岩波書店編集部編「世界がステージ! 国を越えて仕事をするということ」(2002)

久留宮隆 「国境なき医師が行く」(リベリア 2009)

3. 描かれた日本人

① 移民としての日本人

☆シンシア・カドハタ「草花とよばれた少女」(白水社 2006)

韓国系移民 アン・ナ「天国までもう一歩」(白水社 2002)

ドミニカ移民 フーリア・アルバレス「ロラおばちゃんがやってきた」(講談社 2004)

メキシコ移民 ヴィクター・マルティネス「オープンの中のオウム」(講談社 1998) 他

② 現代の日本人は？

☆グレッグ・ライティック・スミス「ニンジャ×ガリレオ×ピラニア」(ポプラ社 2007)

他多数紹介

4. メモをとろう・・・日本でできること

岩波ジュニア新書から、「教育で平和をつくる 国際教育協力のしごと」小松太郎著
ボスニアと日本が共通して、これからできること。

5. 個人トウィニングのすすめ

子どもたちにも簡単にできる活動です。自分の気になる国を一つ決めて、関心を持つこと。ビデオを観たり、地図で調べたり、その国に関するテレビ報道を観たり、自分から積極的に調べる。

国と国が、(上下関係になるのではなく)友達としてつきあっていくことができれば、理想です。この言葉は、IBBY(国際児童図書評議会)の現在の活動で使われているものです。もともとは、IBBYの支部のうち、ある国の支部とある国の支部が、ペアを組んで協力しあうという活動の名称で、既にいくつかのトウィニングが試みられています。日本(JBBY)はまだやったことがありません。(詳細についてはIBBYのホームページで)

参加者の話し合い

- ・ 世界の中の日本を感じる児童文学をもっと知りたいです。欧米人から日本人に対する偏見を感じたことがあります。アイデンティティの違いでしょうか？
- ・ 大人にはある程度理解できますが、世界を知らない子どもたちが、「フォフォー」を読んでもわからない部分が多いのではないかと心配になります。でも知ってほしいです。
- ・ 本をあまり読まないのですが、私自身も子どもも、どうしたら興味がわくのでしょうか。
- ・ 文庫活動に携わっています。子どもたちに本の世界を知ってもらいたいという願いがあります。
- ・ イギリスでもニューヨークでも、町の本屋さんに児童書の良い物が、ほとんど置いてありません。ライトノベルが多く、例えば「赤毛のアン」もありませんでした。
- ・ アメリカで差別をうけた経験があります。
- ・ 息子が中1の時、アメリカにホームステイさせました。良い経験でした。子どもたちは本が好

きで、よく読みます。

- ・ 北京に住んだ頃から、インドの方と個人トウニングをしていました。娘は今も続けて学んでいます。
- ・ 個人でつきあうには問題が無いのに、国と国との関係が難しいと感じます。
- ・ 5年生の母。男の子が読む本を探しに来ました。今の男の子の興味が分かりにくいです。
- ・ マザー・テレサを読んで育ちました。出身地沖縄の戦争の歴史も両親から読まされ、ノンフィクションの作品を多く読む子ども時代でした。今、中2の子の保護者として、何を選んであげたら良いのか悩んでいます。
- ・ 中3男子で、本が大好きな息子は、ジュール・ベルヌなどが大好きです。自分では、今回のような新しい分野の本を選ばないので、とても良かったです。
- ・ 自分自身の経験(青年協力隊員としてリベリア赴任経験)と、フォフォーが似ていて、理解できました。
- ・ 日本人が、イヌイト(当時はエスキモー)の村で活躍したお話をぜひ紹介したいです。映画になったらいいですね。



参加者にインタビュー part II (YA講座会場にて)

- ☆ 今回「YA 文学を読んで国際平和に貢献？」というテーマは、私も日頃関心があったことでした。本を通じて子どもたちに世界について、平和についてもっと知ってほしいと切に思いました。
- ☆ 図書の紹介が参考になりました。中2の息子がいます。今まで古典的なものしか読んでなかったのですが、世界のいろいろな国の書いた新しい本も読んで、視野を広げてほしいと思いました。
- ☆ 講師の竹内先生がすばらしかったです。上から目線ではなく、私たちと同じ目線で話をされていて、とても和やかに講座は進みました。
- ☆ 講座に参加した方のバックグラウンドもさまざまで、自分の思いもよらなかったような意見や考えを聞いたのも面白かったです。
- ☆ 「最近の子どもたちは、勉強ができるほど世界が狭い。」とか、「最近の子どもたちは、デジタルな世界で生きているので、物事を連続性のあるものとして考えられない。」など子育てをしていく中で、考えさせられる意見を聞かせてもらいました。
- ☆ 竹内先生は、いろいろ才能の引き出しのある方なので、可能なら来年も別の形で講座をしていただけたらと思いました。

5) 修理講座「すぐに使える修理テク」

講師：水野千尋（図書ボランティアフェスタ実行委員）

指導：黒須田小学校 図書ボランティア「ブックスマイル」の皆さん
青葉台小学校 図書ボランティア「ブックパル」の皆さん

昨年のフェスタでも好評だった、子どもたちに人気があって傷みやすい「怪傑ゾロリ」の本の修理講座です。糸綴じではない簡単修理を4つ紹介し、その2つ目のページはずれを直すという作業を持参していただいた本で実践しました。参加者と指導者が4つのテーブルで、和気あいあいと、交流をしながらの修理でした。

ミッケや絵本の簡単な方法での修理や、目打ちで穴をあけるだけでなく、電動ドリルで穴をあける方法も、一人ずつ体験していただきました。ドリルを使う方法は、目打ちより簡単で、静かで、力のいらぬ事を実感されたようでした。

□□ 修理するにあたって

国会図書館や県立図書館の修理は原資料を尊重した本格的な修理です。我々学校図書館等でお手伝いするボランティアは、専門の技術もなく、少ない経費で、修理しなければなりません。そのために、できるだけ簡単な方法で、元の形に近く、劣化しにくい材料で工夫する必要があります。どのような形で修理していくか、どのぐらい壊れたら修理をあきらめて廃棄するかは、各ボランティアの所属する団体と相談しておく必要があると思います。それを確認してから、大切な本の修理にとりかかりましょう。

□□ ズロリの本の構造から

ズロリの本は無線綴じという、ページをボンドで固めてある作りになっています。そのため、どうしてもページが取れやすくなってしまいます。その無線綴じの本を糸で綴じて、ページを取れにくくしようという修理です。本のノドに12mm程度の余白がある本に限ります。絵本やミッケなど、ページの端まで情報がある本は、その情報が見えなくなってしまうので、この糸綴じ修理は行えません。また、ズロリだけでなく、同様な作りの本に応用できます。



□□ 糸綴じに必要な材料・道具

製本用麻糸・製本用針 または 布団針、人形用針

製本用目打ち(目打ち)針の太さが2.5ミリ以上 または ドリル

目打ちたたき または 木槌・穴をあけるための台(厚い雑誌や電話帳など)

アメニティコート または ページヘルパー

目玉クリップ(蛇の目のクリップ) または 輪ゴム

のり・はさみ・ボンド(ボンドは速乾タイプを使用すると短時間で次の作業に入れます。)

修理レジメ①

修理レジメ②

修理③

修理④

6) 読書ゲーム講座「広げよう 読書の世界を」

講師：竹本靖代（図書ボランティアフェスタ実行委員）

デモ：阪本京子（図書ボランティアフェスタ実行委員）

ゲーム監修：城所律子（図書ボランティアフェスタ実行委員）

お話を讀んだり聞いたりするだけではなく、材料にして様々な楽しみ方を提案しました。講座では大人向きの素材を用意して参加者自身に楽しさを実感していただきましたが、素材や難易度を変えれば子どもたちへ提供できるプログラムです。その他にも紹介したものは、いずれも答えが「全部違って全部いい」、ひとつだけの正解を当てるものではなく、発想の違いをも楽しむものでした。

レジメのすみに描かれた動物の「しっぽ」の絵に各自で自由に「からだ」を描き足す遊びは、着席してから講座が始まるまでの待ち時間に挑戦していただきました。猫や猿や象など様々な動物が描かれ、中には蛇や蛸も！皆さんの個性が光って、とても楽しいひとときでした。（参考：しっぽとからだが見開きになっている絵本があります。絵本「ね、ぼくのともだちになって！」エリック・カール 作（偕成社）

□ 仕掛け絵本を使ったお話作りに挑戦

はじめにゲーム方法の説明として、なじみのある「かさじぞう」の紙芝居を普通に読み、次に絵の順番をバラバラにしてみた全く異なるお話を作って披露。自由な発想で話を展開してよいことをお伝えしました。

さて、いよいよゲームの本番です。上下をさかさまにしても絵になる仕掛け絵本「光の旅 かげの旅」を紙芝居仕立てにして文を消した16枚の白黒の絵を配り、グループで紙芝居を一作品完成させるゲームに取り組みました。ヒントは、最初の1枚の絵と「明け方、家を出発した。」という原文一文のみです。絵の上下を上手に使い分け、どのグループも各々の個性を生かした素敵な紙芝居に仕上げられていました。作る楽しみの後は鑑賞する楽しみとして、題名もつけた作品を順に発表していただきました。さすが大人のグループ。叙情的で美しい散文や人生の転機を迎えるというドラマチックな作品など、数々の名作が生まれました。最後に、「光の旅 かげの旅」の絵本を読み聞かせして、オリジナルのお話の世界も味わいました。また、話し合いの過程でグループ内の参加者がすっかり打ち解け、お互いのつながりが深まりました。これによって子どもたちが取り組んだ時に、読書をゲームとして楽しみながら、読解力や表現力ばかりではなく、コミュニケーション力も育てる効果を実感しました。

このお話作りは、文を消して順番もお話も自由な発想で組み立てる想像力を養うゲームで、今回は大人が楽しみましたが素材を工夫して子どもたちも取り組めるものです。また、文をそのまま残し、元の順番に並べ替える方法もあります。

紙芝居「かさじぞう」松谷みよ子作 まつやまふみお絵（童心社）

絵本「光の旅 かげの旅」アン・ジョナス作 内海まお訳（評論社）著作物利用許諾取得

□ その他のゲーム紹介

- ◇ 本「ペニーさん」マリー・ホール・エッツ作・絵 松岡 享子訳(徳間書店)を使った推理クイズ。貧乏でも動物たちと幸せに暮らしていたペニーさんでしたが、ある日、動物たちがおとなりさんの畑を荒らしてしまいます。怒ったおとなりさんから損害賠償の要求をされ、困り果てるペニーさんを救おうと動物たちは…(出版社からの内容紹介)というお話で、途中に一面真っ黒に塗りつぶした絵のページが出てきます。これは何の絵でしょうか……?

- ◇ 絵本「きよだいなきよだいな」長谷川 摂子作 降矢なな絵 (福音館書店)を読み聞かせた後、右のような用紙を配布し、それぞれの想像した「きよだいな〇〇」や、こどもがやってきてどうなるかを書いて発表する。

あつたとさ あつたとさ
ひろい のっぽら どまんなか
きよだいな ○ ○ あつたとさ
こどもが 100にん やってきて

- ◇ ことばの響きのおもしろい詩などを読み、内容について質問したり、「あ」って何回言った?などと子どもたちとのやり取りを楽しんだりして、いろいろな角度から文章や作品を味わうゲーム。

詩集「しゃべる詩 あそぶ詩 きこえる詩」はせみつこ編 飯野和好絵 (富山房) より
「あいたたた」谷川俊太郎 「あめりかうまれの」松岡享子



□ 配布物・紹介

よこはましりつとしょかん どくしょスタンプマラソン 2009 1・2年生用 3・4年生用 5・6年生用
お話かるた 「キラキラ応援ブックトーク子どもに本をすすめる 33のシナリオ」(岩崎書店) P264



7) 情報と交流のコーナー

ナビゲーター：井澤智恵美、猶井晴美（図書ボランティアフェスタ実行委員）

各講座の参考資料や制作見本、読書感想画の入賞作品等を展示し、講座の合間などに多くの方に立ち寄っていただきました。参加できなかった講座の概要に触れたり、子どもたちの力作に感心したりする多くの姿がありました。

- 📖 読書感想画・・・コンクール入賞作品32点、ポスター
- 📖 読み聞かせ講座・・・参考図書、配布冊子
- 📖 展示の工夫講座・・・ガラスケース展示例写真、ブックスタンド、図書カレンダー
- 📖 ブックトーク講座・・・使用図書
- 📖 YA講座・・・使用図書
- 📖 修理講座・・・工程、修理材料
- 📖 読書ゲーム・・・紙芝居、アニメーションに関する図書
- 📖 活動グループ紹介
- 📖 記録紙・チラシ・リーフレット・・・昨年度図書ボランティアフェスタ記録誌、@Lib、読書フェスティバル等多数配布



第3回図書ボランティアフェスタ報告書

発行日	平成21年10月2日
発行	あおば学校支援ネットワーク
編集	図書ボランティアフェスタ実行委員会
TEL	(070)6974-0184
Email	info@aobaschoolsupport.net
HP	http://www.aobaschoolsupport.net/